

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3890500188
法人名	株式会社お茶屋の里
事業所名	グループホームはなれ茶屋
所在地	愛媛県新居浜市西の土居町2-8-21
自己評価作成日	平成25年9月6日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

家族に対して安心して頂く為に、毎月お渡しする「利用者の現状」には、各担当者が身体面、精神面一ヶ月の出来事などを細かく落とし込んだり、「はなれ茶屋便り」においては、個人個人のいろいろな場面での写真をお載せして一ヶ月の様子を分かりやすくお知らせしている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成25年9月26日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

- 事業所の庭は日本庭園の造りで、窓からも風情のある庭を眺めることができる。調査訪問時、玄関には、秋の七草のフジバカマを生けておられ、壁には「月とすすき」のタペストリーが飾られていた。両ユニットをつなぐ仕切りは、行事時には開放して広間として使用されている。居間の壁には、行事や外出時の写真が貼られていた。居間のテーブルには彼岸花や鶏頭の花が生けられていた。昼食時、天窓から光が差し込んできたため、日除けのために職員はロールカーテンを下ろしておられた。
- 事業所ではこの一年間、利用者個々の担当職員がそれぞれに介護計画を立てられるように取り組んでこられ、又、すべての利用者の計画内容を、すべての職員で共有できるように取り組まれた。
- 近くの遊歩道をよく散歩されており、近所の方々と親しくなって、親子で事業所に遊びに来てくれるようになった方もいる。利用者は、子どもを「かわいいね」と抱っこしたり、おやつと一緒に食べたりして、ふれあっておられる。又、敬老会、夕涼み会、バザー等、事業所の行事時には近所の方にチラシを配り、案内されている。

V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23, 24, 25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9, 10, 19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18, 38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2, 20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11, 12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30, 31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目：28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I. 理念に基づく運営

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホームはなれ茶屋

(ユニット名) すずらん

記入者(管理者)
氏名 神野晶子

評価完了日 平成 25年 9月 6日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 玄関等の入り口に理念を掲げ、いつも目につくようにしている。 毎日、朝礼でも唱和している。	
			(外部評価) 「地域の人に感謝し安心と信頼と満足を得られるサービスを目指します」という法人理念に沿って、「笑顔、誠実、ふれあい」と事業所理念をつくっておられ、玄関等に掲示されている。相談室には、法人理念や心構え、今月の目標等も掲示されていた。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	(自己評価) いつも散歩させて頂いている遊歩道の草取りをするなどして地域の清掃活動に参加したり、地域のお寺や神社の祭りに参加している。また、散歩中仲良しになった近所の親子がホームに遊びに来られ、一緒にゲームをしたりおやつを食べたりしている。夏休みには近所の子供さん達がホームの庭でセミ取りに来たりしている。また夕涼み会では家族や地域の多くの方の参加を頂いた。	
			(外部評価) 近くの遊歩道をよく散歩されており、近所の方々と親しくなって、親子で事業所に遊びに来てくれるようになった方もいる。利用者は、子どもを「かわいいね」と抱っこしたり、おやつを一緒に食べたりして、ふれあっておられる。又、敬老会、夕涼み会、バザー等、事業所の行事時には近所の方にチラシを配り、案内されている。地域の小学校の運動会を見に行かれた時には、テントの中に利用者の座席を用意してくださり、利用者は競技にも参加された。地域の祭り時には、自治会館に太鼓台を見物に行かれ、子ども達と一緒に写真を撮ったりされた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 中学生や高校生の職場体験を受け入れたり、ヘルパーの研修生を受け入れている。また運営推進会議で日頃の実践を伝えている。日々の業務に忙しく地域の人々に向けて支援方法の発信までには至っていない。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 夕涼み会を利用し運営推進会議にさせて頂いた。またホームの入居者の介護度、行事内容や医療への連携、サービス目標の達成状況、日頃の支援の報告などをさせて頂いている。	
			(外部評価) 会議は、系列3グループホーム合同で、会場は持ち回りで開催されている。会議には、地域から民生委員、公民館長、連合会長等が参加されており、ご家族は現在、1名の方が参加してくださっている。利用者は、喜んで会議に参加されるようだ。事業所からは、行事や利用者の様子を報告して、参加者から意見をうかがったり、地域の方から地域の行事予定等を教えていただき、参加につなげておられる。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 介護福祉課にホームの活動内容や現状を定期的に文書で伝えている。また、地域密着型部会に出席し、市担当者からの情報を得るようにしている	
			(外部評価) 運営推進会議時には、地域包括支援センターの方から、「権利擁護について」「介護保険の変更について」等の説明会の案内があり、職員やご家族も参加されている。2ヶ月に1回、介護相談員の訪問があり、利用者とお話して暮らしについて意見を聞いてくれている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 会社の方針で入居者の安全を守る為に電動ドアになっている。	
			(外部評価) 職員は、外部研修にて身体拘束について勉強され、朝の会等で他職員に周知されている。玄関は、職員が暗証番号を入力して開けるようになっている。裏口は、利用者が自由に出入りできるようになっている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 言葉での虐待も含め、どういう事が虐待になるのかユニット会で話し合ったり研修にも参加している。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 研修などに参加しその時は分かったつもりになっているが、当事業所での事例として滅多に出ないので関心が長続きしない。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約書を読み合わせながら、これはどういう事を言っているかなど具体的に説明している。また改定があった時は、追加で文書で説明し同意を得ている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 面会時にお話したり、ホーム内での行事に参加頂いた後ホームで食事会を開催し、職員や他の家族との交流をして頂いている。遠方の家族には電話にて要望や意見などを確認している。意見箱も設置している。 (外部評価) ご家族へは毎月、行事時の写真等を載せた「はなれ茶屋便り」と、利用者の現状について報告書を送付されている。敬老会、夕涼み会やクリスマス会等の行事時には、ご家族もお誘いして行なっておられ、ご家族同士や職員との関係作りの機会にもなっている。今夏の夕涼み会には、10家族の参加があり、利用者と一緒に食事や盆踊り等を楽しまれた。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 毎月月末に社長や施設長から運営について説明がありスタッフ全員参加している。また毎月リーダーが参加して運営報告をして現場からの意見も報告している。また代表者が職員から運営に関するアンケートを定期的に取り運営に反映させている。	
			(外部評価) 毎月の職員会議時には、意見を出し合い、介護計画のモニタリングを行ったり、「洗濯物の片付け方」や「散歩時間の検討」等、業務改善に向けて話し合われている。法人代表者は、「制服支給について」や「経営状況について」等、直接、職員にアンケートをとり、運営に採り入れておられる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 職員の遅刻欠勤の状況を管理したり、個人面談にて各自の目標や達成状況を話し合ったり、勤労への自己評価を取り入れながら管理者も多方面から査定し給与や賞与に反映している。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 日頃の講習や資格取得に対する講習への参加を金銭面でもバックアップしてくれている。就業後にも地域での研修には積極的に参加している。また、所内でも接遇において講師をお願い開催している。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 東予地区での職員交流会や同業者との相互研修に多くの職員が参加した。また、相互研修においては、他事業所の良かったと思えることを日頃の支援に反映させることが出来た。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 本人、家族の不安を少しでも和らげる事が出来る様に、身体面や精神面などの情報を電話でお伝えしたり、面会時にも細かくお伝え出来る様にしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 本人・家族の不安が軽減出来るよう、今までの困り事を聞いたり家族と職員と同行で心療内科を受診し、今後の方向性について確認し合うようにしている。また、入居直後は安心頂ける様々電話で状況をお伝えしている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) サービス導入時特に家族が困っていた事としては、利用者の精神症状である事が多いので、症状が改善されるよう、家族にも心療内科などの受診にも同行して頂き、適切な医療を受けられるように支援している。また本人の思いと家族の思いを聞いてケアプランに反映させている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 手作りクッキングや掃除、洗濯干しや片付け等を通して、また昔話のお話し相手をしたりしながら家族の代わりになれる様努力している	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 気軽にご自宅に外出、外泊して頂いたり、花見、そうめん流し、夕涼み会、寿司パーティー、クリスマス会などに家族にも声かけし参加して頂き、利用者も一緒にホーム内で食事を伴にして頂いたりしている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 馴染みの人と電話でお話をして頂いたり、会いたい人と面会や外出が出来るように支援して頂いている。また地域の運動会や文化祭に参加したり、盆踊りやバザーを開催し交流に努めている。 (外部評価) 利用者が馴染みの美容院の利用を続けられるよう職員が送迎されたり、職員が付き添いご自宅に戻り、衣替えを手伝っているケースもある。現在、「生まれ育った実家のある地に行ってみよう」と言われる利用者がおられ、担当職員の方は、介護計画に盛り込み、支援することを考えておられた。以前は、友人や近所の方が来てくださっていた方もあったが、ご本人の状態のこと等もあって、関係が途切れつつある方もいるようだ。	今後さらに、利用者一人ひとりが、「その人らしい暮らしを続ける」ことができるように、利用者が大切にしている人や場所等をさらに探り、つなげる支援に工夫を重ねていかれてほしい。

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者の状況を把握し仲の良い利用者同士で外出や会話をし易い様に支援したり、孤立しないよう声かけ、寄添ったりしている。他の利用者に対してコミュニケーションを上手く取れずどうしても孤立しがちな利用者に対しては、職員が度々声かけをしたり家族の協力を得て頻回に面会をして頂いたりしている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 医療が必要になり、入院される入居者においては、退居後初期の頃は電話や見舞いにも数回行っているが、数ヶ月経過すると容態も悪化している事も多く、度々の連絡は実際には出来なくなってくる事が多い。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 利用者職員が1対1の場合に本音が聞かれるので朝の挨拶の時に「困った事はないですか」と質問したり、入浴時に思いをお聞きしたり、ドライブや散歩、庭掃除、水やりにお誘いし、何気ない会話から得た情報は職員間で報告、連絡、相談し合っている。 (外部評価) センター方式の「気付きシート」を用いて、職員が観察したり、聞いたこと等を記入して情報を集めておられる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 初回アセスメントで得られなかった情報は、その後の家族との話の中だったり、日頃の利用者との会話の中で見つけて追加事項として修正している。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 一日の過ごし方は、ケアプランの中で時間を追って計画書の中に反映させて支援している。有する力については、職員側からお手伝いをお願いすることで持てる力を発揮して頂いている。また職員間でも日頃の支援の中で得た情報を交換し合っている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 介護計画については各担当者が家族に連絡を取り、面会時に相談したり、コミュニケーションが良好な利用者においては日常の中でお聞きすることが多い。本人から聞き出す事が困難な利用者においては、日常の団欒の中でその人なりの思いを職員間でアセスメントする事が多い。	今後さらに、利用者やご家族から得た情報を十分に反映した利用者主体の介護計画が立てられるよう、取り組みをすすめていかれてほしい。
			(外部評価) 事業所ではこの一年間、利用者個々の担当職員がそれぞれに介護計画を立てられるように取り組んでこられ、又、すべての利用者の計画内容を、すべての職員で共有できるように取り組まれた。介護計画の長期目標が一年の方は短期目標を6か月、長期目標が半年の方は、短期目標は3か月とおおむね期間を決め見直しを行っておられる。又、状態変化時には随時見直すようにされている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 利用者が普段と変わった様子を呈している時は、報告・連絡・相談を密にし、生活記録に記入したり特に変わった事があった時は赤ペンで業務日誌に記入し情報を共有出来るようにしている。各担当者にケアプラン見直し時、アセスメントシートに記入して貰い、他のスタッフと目線が違っているような時は、全体にどう感じているか聞かせて貰っている。ケアプランにした後は、毎日モニタリングすることでケアプラン見直し時の参考になっている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 問題が発生すれば問題が解決出来る様、ご家族様と連絡を密にし、ニーズを把握し柔軟に支援できる様に取り組んでいる。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 地域の中学の合唱団に中学の卒業記念に合唱をして貰ったり、地域の方に盆踊りを教えて頂いたり、ボランティアの方に敬老会などには大正琴や南京玉簾などを披露して頂いている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 隔週ごとに協力医に往診して頂いている。体調の悪い時は家族に同行もお願いしながら受診している。また、心療内科などは納得のいくかかりつけ医に受診して頂くようにしている。また隔週毎に訪問歯科などにも来て頂いている。	
			(外部評価) すべての利用者が協力医の往診を受けておられる。持病によって、入居前から診てもらっている医療機関へ受診される方には、ご家族と一緒に職員も付き添い、事業所での様子を報告されたり、生活の相談をされている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	(自己評価) 現在看護職員は在籍していない。利用者に体調変化があった時は介護職員が管理者に報告し、家族と相談しながら、適切な受診が出来るよう心がけている。	
			(外部評価)	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	(自己評価) 入院時には、ホーム側から介護添書を作成し入居時の情報を渡したり、退院時は看護サマリーを頂いて情報交換している。	
			(外部評価)	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 現在看護師がホームに勤務しておらず、当ホームで経管栄養になった場合は、生活を持続するには困難である事の説明をしている。重度化しても口から食事が出来ている間は、ホームで支援する事等の説明をしている。	
			(外部評価) 事業所では、これまで看取りを支援した事例はないが、現在、ご家族の協力が得られ、事業所での看取りを希望されている方がいる。職員は、「事業所で看取りを支援したい」と思っている方と、「看取りは怖い」と思っている方が半数ずつのようだ。終末期の過ごし方については、今後、利用者の希望等もお聞きしながら、事業所独自の看取りの指針を検討されてはどうだろうか。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) AEDを設置している。また数名の職員が再度消防署での研修を受講した。急変時や事故発生時にはどうするか普段から話し合ったり、電話口に急変時のマニュアルを掲示している。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 防災マニュアルを作っている。訓練については、夜間対応・日中の火災などの避難訓練を消防署や地域の人の立会いの下行った。地域での防災訓練にも参加している。また先日の避難勧告時には当事業所に他事業所18名の利用者と職員が避難して来られ、一緒に食事をするということがあり、災害時の予行演習になった。 (外部評価) 6月には夜間、利用者の居室から出火したことを想定した避難訓練を日中に実施され、初期消火や通報、利用者を避難させる訓練を行なわれた。近所には、金たらいを叩いて知らせ、2名の方が駆けつけてくださった。訓練後、職員から反省点が出され、訓練を重ねて行なうことの大切さを感じられたようだ。又、実際に停電を経験して、非常灯の明かりではトイレが暗いと言うことが分かり、ランタンの数を増やし備えられた。	事業所が所在する地域は、水害の危険性がある地域でもあり、地域との協力体制等については、今後さらに力を入れて取り組まれてほしい。又、今後も避難訓練を重ね、課題を明らかにしながら、利用者、職員の安全や安心に向けた取り組みをすすめていかれてほしい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 利用者の人格を大切にし、日頃からの声かけ・コミュニケーションを大事にしている。 (外部評価) 職員は、朝礼時に、理念とともに、「叱らない、怒らない」「せかせかと仕事をしない」「忙しいときでも笑顔でケアする」と心構えを唱和されている。昼食後、職員は、利用者をご自分で歯磨きできるように、一つひとつ案内して支援されていた。体温調節が難しい利用者には、職員が気を配り、衣服を調節して支援されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 職員には利用者の思いに添って支援して貰っている。いつも全体で動くのではなく、外出も少人数で出かけたり出来るように支援している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 一日の過ごし方は、ケアプランの中で時間を追って計画書に反映し支援している。有する力については、ことわざかたやゲーム、お茶を飲みながらの会話の中で発見させて頂いている。また職員側からお手伝いをお願いすることで持てる力を発揮して頂いている。またそれを毎日モニタリングしている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 選ぶことが困難な利用者には職員がその人らしいコーディネートをしている。お化粧をされる人には本人の希望もあり、職員がアドバイスや手伝いをしている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 食事を共にし、盛り付けや片付けも一緒に行っている。また気の合う利用者同士で並んで食事できるように工夫している。また食事中は音楽をかけて楽しい雰囲気作りを行っている。 (外部評価) 法人の栄養士が立てた献立で厨房から食事が届き、事業所で配膳をするようになっていく。職員は、利用者と同じ物を一緒に食べながら、「お肉小さく切りましょうか」「お茶も飲んでくださいね」等と言葉をかけたり、勧めておられた。飲み込み難い方は、事業所でミキサーにかけて支援されている。昼食後、利用者は、エプロンを掛けて職員と一緒に食器を洗っておられた。月に一回は、「手作りクッキング」の日を設けておられ、利用者職員で「芋炊き」や「お好み焼き」等を手作りして楽しまれている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 1日1500ccの水分摂取を目標に好みの飲み物をいろいろ揃えて選んで頂けるようにしたり、栄養士が作った一日1500Kcalの献立を美味しく食べる事が出来るよう、利用者に合わせて形状を変えたりしている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 食後の口腔ケアなど毎回徹底している。月に二回訪問歯科診療の往診があり口腔ケアや治療をして頂いている。入れ歯も洗浄剤に毎晩漬けて清潔にしている。また痰がからまないよう、咳払いの練習をしたり、歯磨きやうがい後に実際に出来る人には咳払いをして痰を出しきるようにして頂いている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 排泄の記録をつけ、一人ひとりの体調やパターンを職員が把握し、トイレで排泄が出来るように支援している。	
			(外部評価) 入居時、頻尿で尿失禁が多く見られた利用者について、職員で話し合い、排泄パターンの把握に取り組み、薬物療法とともに早めにトイレへ行けるよう、声かけする支援を重ねられた。現在は、失禁することも減り、布パンツで過ごせるよう改善されたケースがある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 利用者の状況に合わせ、食後にトイレ誘導を行っている。水分不足にならないよう注意し、運動等の働きかけをしている。毎日のラジオ体操の支援をしたり、遠慮なく自身で歩行練習して頂いている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 入りたいと言う時間に入浴支援したいが、レクリエーションや歩行練習など全体的な時間を考えると、利用者が入りたい時間に入浴する事は困難で、職員が3人以上になっている午後から夕方にかけての時間が多くなっている。	
			(外部評価) 2日に1回くらい入浴できるよう支援されている。ひとりで湯船に入ることが難しい方は、夏場はシャワーを浴びることを支援し、寒くなると職員が二人で介助して湯船で温まれるよう支援されている。入浴を嫌がる方には、「薬をつけましょう」と脱衣所までお誘いして、「シャワーしてから塗りましょう」と入浴につながるよう、言葉かけに工夫して支援されている。入浴後、ご本人は、「気持ちよかった」と言われるようだ。入浴剤を使って、「今日は〇〇の湯ですよ」と入浴に気が向くようにお誘いすることもある。入浴時に自分の下着を手洗いして、自室に干す方もいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 体調やその時々状況に応じて、居室や畳の間等で休んでもらっている。夜間、居室では寂しく不安をもっている利用者には、職員が見える畳の間で休んでもらい、安心して眠られている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 薬シートや診療記録等で確認している。利用者に合わせて服薬の支援を行い、症状の変化に気をつけている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 生活歴等を考慮し、日々役割を持って過ごせるよう支援している。買物を楽しみにしている利用者には職員が同行している。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 天気が良い日には散歩に出掛けたり、季節の花が楽しめる様、度々ドライブに出掛けている。家族の協力を得て外食の機会を度々持って頂いている。	
			(外部評価) 近所の遊歩道や神社・お寺まで散歩されたり、桜、バラ、菖蒲、コスモス等の季節の花のきれいな場所にドライブして楽しまれている。買い物に出かける時には、フードコートで食事されたり、おやつを食べて帰ることもある。お花見やイチゴ狩りは、数人ずつに分かれて出かけられ、車いすを使う方も出かけて楽しまれた。ご家族が遠方から帰省する際、利用者もご自宅に戻り、2~3日泊まる方がいる。お墓参り等、個別に支援することもある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 買い物支援の時、出来る人には財布の中にお金を持って貰い、自分の財布からお金を出して貰えるようにしている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 友人や家族へある程度自由に電話して頂いている。手紙を書く事が難しい方が多いので、暑中ハガキや年賀ハガキに近況が分かる利用者の普段の写真を印刷し、ご本人には一言を書いて頂いている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 季節感のあるタペストリーを壁面に飾ったり、音や温度等、不快感がないように配慮し、フロアには季節の花を飾り、季節感を少しでも味わってもらえるようにしている。玄関では金魚を飼ったり、ベンチに人形を飾ったりして温かい雰囲気が出るように工夫している。</p> <p>(外部評価) 事業所の庭は日本庭園の造りで、窓からも風情のある庭を眺めることができる。調査訪問時、玄関には、秋の七草のフジバカマを生けておられ、壁には「月とすすき」のタペストリーが飾られていた。両ユニットをつなぐ仕切りは、行事時には開放して広間として使用されている。居間の壁には、行事や外出時の写真が貼られていた。居間のテーブルには彼岸花や鶏頭の花が生けられていた。昼食時、天窓から光が差し込んできたため、日除けのために職員はロールカーテンを下ろしておられた。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>(自己評価) ソファや畳の間を利用し、ゆっくり過ごしてもらえている。また自立度の高い利用者が多い為、自由にして頂いている。</p>	
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 使い慣れた家具等を置き、使い易いように配置している。写真を飾ったりして利用者が安心して過ごせるようにしている。</p> <p>(外部評価) 居室の表札は、職員がトールペイントで手作りされている。又、居室内には、担当職員が個々のお誕生日に作ったお祝いの色紙を飾っておられた。ご自宅で使っていた鏡台を持ち込まれている方や、ご主人のお位牌やテレビ、ソファ、たんす等を置いている方もみられた。ほうきを使ってご自分で掃除する方もいる。調査訪問時の昼食後には、自室のベッドで休まれる方や、ソファに座ってテレビを見ながら過ごされる方もおられた。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>(自己評価) 各居室には温かみのある表札を設置している。廊下等に物を置かないようにし、安全に移動出来るようにしている。トイレには便所と書いたプレートをつけてわかりやすくしている。</p>	